

# 文化の丘

令和2年春号  
(ISSN 1345-2282)

No.365

- 1 百年にわたる浙江図書館 この先新世紀へ（後編）
- 2 新世紀に向って、浙江図書館 新館
- 3 昔へいざない  
こんにちは 館長です
- 4 静岡県の図書館 Snap Shot!

## 特集 百年にわたる浙江図書館 この先新世紀へ（後編）



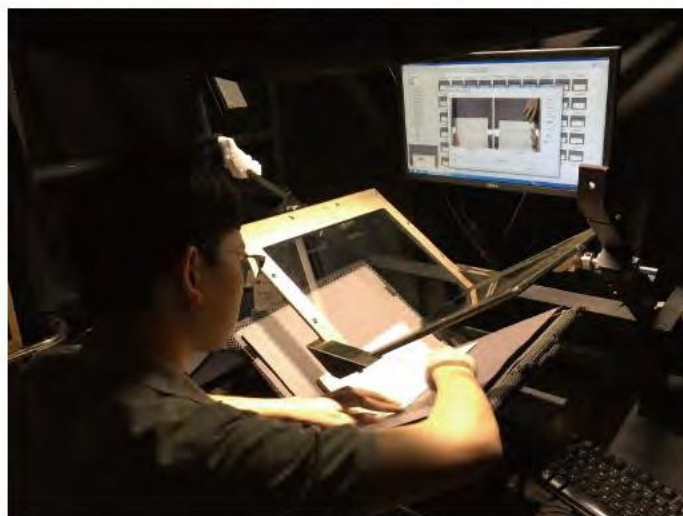
浙江図書館 視覚障害者センター



「文瀾説教壇」イベント



浙江図書館 古書センター



古書修復作業

今号の特集は前号に引き続いて、中国・浙江省の浙江図書館から当館に研修のため来日している孫暁清（そん ぎょうせい）さんに、特に浙江図書館における図書館サービスについて寄稿いただきました。

浙江図書館では「文瀾（ぶんらん）」シリーズとして、「文瀾説教壇」、「文瀾の窓」、「文瀾読書大会」、「浙江図書館文瀾社会教室」というような4つの読者活動サービスブランドを創出しました。「文瀾閣」は清朝が「四庫全書」を保管するために建てた王室の蔵書館で、清朝時代の有名な「七閣」の1つであり、杭州西湖の岸にある孤山南部の麓に位置しています。中国「南三閣」で唯一の残存する蔵書館です。



文瀾閣



特色コレクション  
文瀾閣「四庫全書」

2面 新世紀に向って、浙江図書館新館▶

浙江図書館は省全体の公共図書館資源を統合して「浙江オンライン図書館」を開業し、省全体をカバーする公共福祉デジタル読書サービスを提供しており、年間 1,500 万人以上の訪問者が利用しています。WeChat Public APP と Alipay サービスウィンドウを通じて、文化情報問い合わせ、図書検索、読者カード作成、デジタル読書などの公共サービスがスマートフォン端末で実現できて、利便性を向上させています。

浙江図書館が先頭に立って、省内 11 の市立図書館と3つの児童図書館を集結し、省全体を一つの形で、第三者信用サービス機関と連携し、「信閲」サービスを打ち出しました。



浙江図書館ウェブサイト本ページで掲載されている「信閲サービス」情報

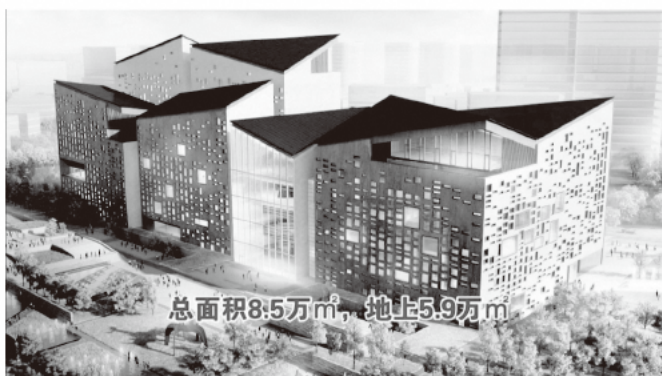
地元の公共図書館に立ち寄って本を返却するか、費用自己負担の形で図書館まで宅配便を送ることができます。

また浙江図書館は、国家文化情報資源共有プロジェクト、浙江省視覚障害者情報アクセスサービスセンター、全国図書館共同カタログセンター、浙江省サブセンターの役割も担っています。総合図書館情報学専門誌「図書館研究和工作」(ISSN CN33-1398/G2)を主催し、発行しています。

### 新世紀に向って、知的図書館を目指す浙江図書館新館

銭塘江に沿って立地し、建築が始まった浙江図書館新館は浙江省文化センターに属しており、「知識の入り口、人民の大学」に位置づけられ、地方公共図書館の「国内有数の、世界クラス」総合図書館を目指しています。

高度な科学技術を基盤としたスマート図書館となり、総合的な貸与機能に加え、人文・社会科学をテーマにした図書館、音楽・舞台芸術図書館、原稿・宝物のトピック図書館、青少年知的創造図書館、美術テーマ図書館、教育・文化創造センターを開業する見込みで、利用していただく読者全体への新しい総合サービスに取り組んでいきます。



总面积8.5万㎡，地上5.9万㎡



浙江図書館 新館構想図

新館の総面積は 8.5 万平方メートルで、地上 5.9 万平方メートル、地下 2.6 万平方メートル（地下2階）になります。



二次元コードを通じて、スマートフォンで図書館APPダウンロードや図書館サービスが利用可能

2018 年 4 月に登場した「信閲」サービスは、個人信用をもとに読書サービスを提供するものです。第三者信用機関で 550 ポイントに達する省内の読者は、オンラインで借り入れ機能を開き、図書館に無い本を購入して、借りることができます。図書館と連携関係を持つ出版社は、リクエストされた新書を直接読者の住所まで宅配便によって届けることを担当します。書籍費用と宅配料は図書館と出版社それぞれ負担することになっています。返却の場合、持参の形で



浙江図書館刊行物  
「図書館研究和工作」  
(ISSN CN33-1398/G2)

2号にわたって、孫さんから浙江図書館について案内いただきました。浙江省へは富士山静岡空港から杭州（こうしゅう）市や寧波（ねいは）市、温州（おんしゅう）市まで定期便が就航していますので、ぜひ一度浙江省と浙江図書館を訪れてみてください。

## 県立中央図書館 開館インフォメーション

| 開館時間 | 本館  | えほんのひろば         | 休館日 | 本館  | えほんのひろば  |
|------|---|-----------------|-----|---|--|
|      | 月、火、土、日、休日<br>午前9時～午後5時<br>水、木、金（休日以外）<br>午前9時～午後7時 | 午前9時30分<br>午後6時 |     | 3月2、16、30、31日<br>4月1、6、18～27日<br>5月7、18、29日 | 3月10、11、20日<br>4月1、14、15、18、19、25、26、29日<br>5月7、19、20日 |

※休館日に関する情報は変更が生じる可能性があります。  
最新の情報については当館のウェブサイトにてご確認ください。

### いんぶん 歴史文化情報センター 昔へ いざない

国土地理院が過去の地震や津波、噴火、洪水などの自然災害を伝える伝承碑を示した地図をウェブサイト「地理院地図」で公開しました。これは伝承碑が存在していたにもかかわらず、地元の住民に知られていなかったために甚大な被害を受けた西日本豪雨の反省を踏まえた取り組みです。静岡県といえば、被害が想定される災害は地震と津波と考えている方が多いと思います。しかし、甚大な被害をもたらした近年の災害としては七夕豪雨（静岡、清水、浜松、沼津）や狩野川台風（修善寺、大仁、韮山）があり、いかなる災害に対しても備えが必要です。今回は約300年前に発生した宝永地震によって発生した、静岡市と富士宮市にまたがる白鳥山の崩落被害（長貴）について紹介します。

#### 宝永地震に伴う白鳥山の崩壊・崩落

宝永4（1704）年11月4日に発生した宝永地震

により、白鳥山の東側、富士川に面した部分が崩落し、多量の土砂が麓の橋上と対岸の長貴を襲い多数の住民が命を落としています。さらに崩落した土砂が富士川をせき止めて湖水となったため、富士川の水かさが増し、近隣の村が心配したといわれています。この白鳥山の崩壊・崩落により、命を落とした長貴村の22人を供養するために建てられたのが宝永地震犠牲者供養塔です。

供養塔は白鳥山の崩落地を真正面に望む位置（八幡社近く）にあり、被害を忘れてはならないというメッセージが込められているように思えます。私たちは先人が遺したメッセージを受け取り、後世に伝えていく必要があるでしょう。



写真：宝永地震犠牲者供養塔  
（歴史文化情報センター所蔵）

静岡県立中央図書館 歴史文化情報センター 〒420-0853 静岡市葵区追手町9-18 静岡中央ビル7階  
電話 054(221)8228 FAX 054(255)3988 メール rekibun02@tosyokan.pref.shizuoka.jp

## こんにちは 館長です

冬の寒さも和らぎ、早春の暖かな陽の光に、ここ谷田山周辺の桜も蕾を膨らませ、待ちわびた春の到来を感じさせてくれます。

12月3日、グランディエールブuketーカイを会場に、第8回静岡書店大賞授賞式が開催されました。静岡書店大賞は、県内の書店員、公立図書館や学校図書館の職員等が投票して選ぶ賞で、紙の本の「素晴らしさ」を読者に能動的に伝えていこうとする試みとして立ち上げられた取組みです。当日、小説部門、映像化した文庫部門、児童書新作部門、児童書名作部門で受賞された作品については、県内書店約580店舗がフェアを実施し、また当館を含め、県内公立図書館が紹介コーナーを設置して、来館するお客様にインフォメーションしました。社会全体の読書離れが指摘される昨今ですが、書店と図書館が協力し、紙の本の持つ魅力を、県民の皆様に発信していくことができればと思います。

2月15日には、恒例の貴重書講座を開催しました。当館の特殊コレクションである江戸幕府旧蔵書「葵文庫」に関連した講座で、今回は、葵文庫の会会員で、県立静岡城北高校の矢島一教頭に講師をお願いしました。「万延元年の『メリケン紀行』～小栗主従の書籍から辿る遣米使節～」と題し、江戸幕府初の公式外交使節で世界一周を果たした使節団による160年前の貴重な体験について取り上げていただきました。矢島先生が現代語訳された当時の従者の記録で、わが国初の世界見聞録とも言える「米利堅紀行」をベースに、鎖国

によって閉ざされていた日本から、広大な世界へ船出した日本人のカルチャーショックを交え、興味深くわかりやすい解説で、聴講者を楽しませていただきました。

2月19日には、今年度5回目となる「新刊サロン」を当館の「子ども図書研究室」で開催しました。この研究室は、平成16年に策定された静岡県子ども読書活動推進計画に基づき、市町立図書館等の児童サービスを支援するとともに、児童図書研究者、教員、読書推進ボランティアの皆さん等への適切な情報を提供することを目的として設置されたものです。「新刊サロン」は、子どもの本の全点収集を行っている当研究室で、毎月受け入れている新着児童図書を囲みながら、当館職員と参加者の方が自由に意見交換をする場です。今回も、和やかな雰囲気の中、様々な立場の方による、熱心な語り合いに花が咲きました。

床のひび割れで使用できなかった閲覧室の利用が再開し、全ての図書館サービスの提供が可能となってちょうど1年が経ちました。閲覧室で、机上に分厚い専門書を何冊も積み上げながら黙々とメモをとられる利用者の方々を目にしますと、従来の当館の姿を取り戻したという感慨を覚えます。と同時に、すべての人に開かれた公共図書館には、現在、様々な可能性が求められています。不易であるべき機能をより一層充実させながら、新しい時代の期待にも柔軟に responding していく図書館でありたいと思います。



2019.5.15 湖西市立中央図書館



2019.5.17 藤枝市立駅南図書館



2019.5.22 函南町立図書館



2019.5.29 静岡市立西奈図書館



2019.5.29 藤枝市立岡上山図書館



2019.6.5 掛川市立大東図書館

市町立図書館の振興のために、県立中央図書館は以下の事業を行っています。

- ▷ 協力車による運営相談や分館訪問を行い、図書館運営についてヒアリングや助言を行います。
- ▷ 各図書館の間で資料を貸し借り（相互貸借）する際の、情報と物流のネットワークを提供します。
- ▷ 各図書館で働く職員のスキルアップのため、公立図書館等職員研修を企画・運営します。
- ▷ 専門的な資料を収集し、市町立図書館の求めに応じて貸出（協力貸出）します。